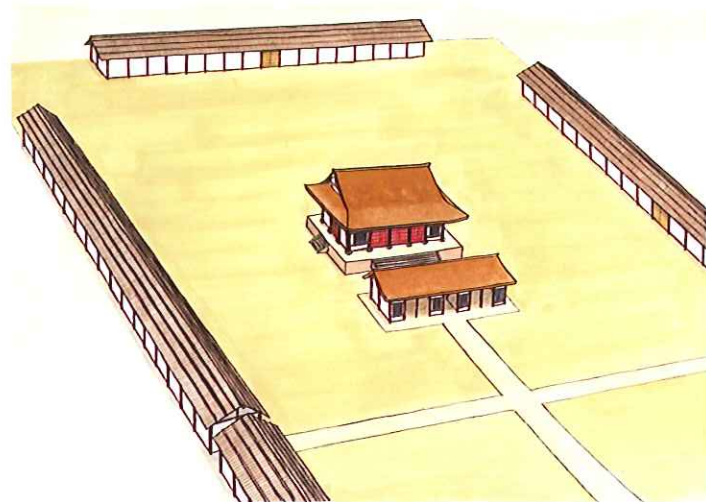


# しせきこうずけのくににつたぐんちょうあと 史跡上野国新田郡庁跡

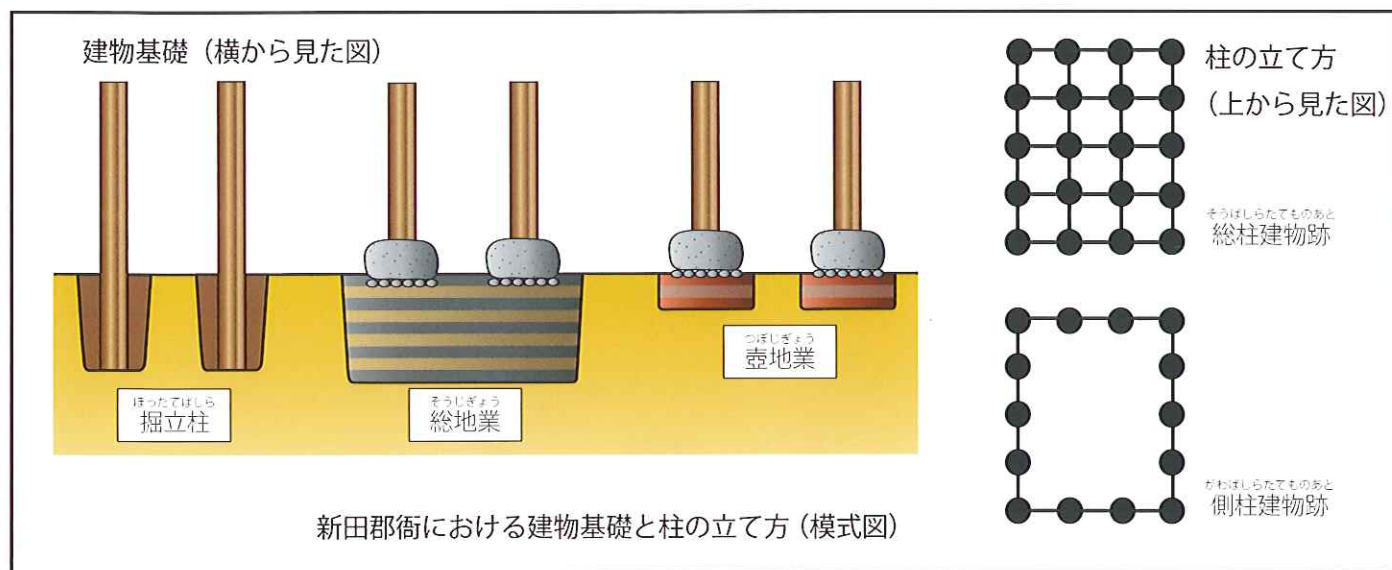
—平成 26 年度現地説明会資料—



上空から見た正殿跡と長屋建物跡（平成 19 年度撮影）



せいだん、ながやたてもの  
正殿と長屋建物（想像図）



## 【用語の解説】

郡衙（ぐんが）

郡におかれた役所（平安時代、上野国には 14 郡あった）。『上野国交替実録帳（こうずけのくにこうたいじつろくちょう）』によれば、郡衙には以下の 4 つの建物群があったとされている。

・「郡庁」（ぐんちょう）

郡司（郡を治める地方官）が儀式や政務を行うところ。

・「正倉」（しょうそう）

租税として徴収した米を保管する倉庫。

・「館」（たち）

郡司の宿舎、巡行している役人の宿泊施設。

・「厨」（くりや）

郡衙全体の食事の調達、役人の食事を供給する所。

## 史跡上野国新田郡庁跡

—平成 26 年度現地説明会資料—

編集：太田市教育委員会文化財課

発行：平成 26 年 11 月

てんらしちどういせき  
天良七堂遺跡は、7 世紀後半から 9 世紀の新田郡における役所「新田郡衙」であったことが発掘調査などによってわかっています。郡衙の中心部分である郡庁は、国内最大の規模であったことがわかり、平成 20 年 7 月、「上野国新田郡庁跡」として国の史跡に指定されました。

太田市教育委員会では、平成 20 年度から遺跡の範囲や内容を確認するための発掘調査を行っています。平成 26 年度の調査では、次のような成果をあげることができました。

### ○郡庁北西部分

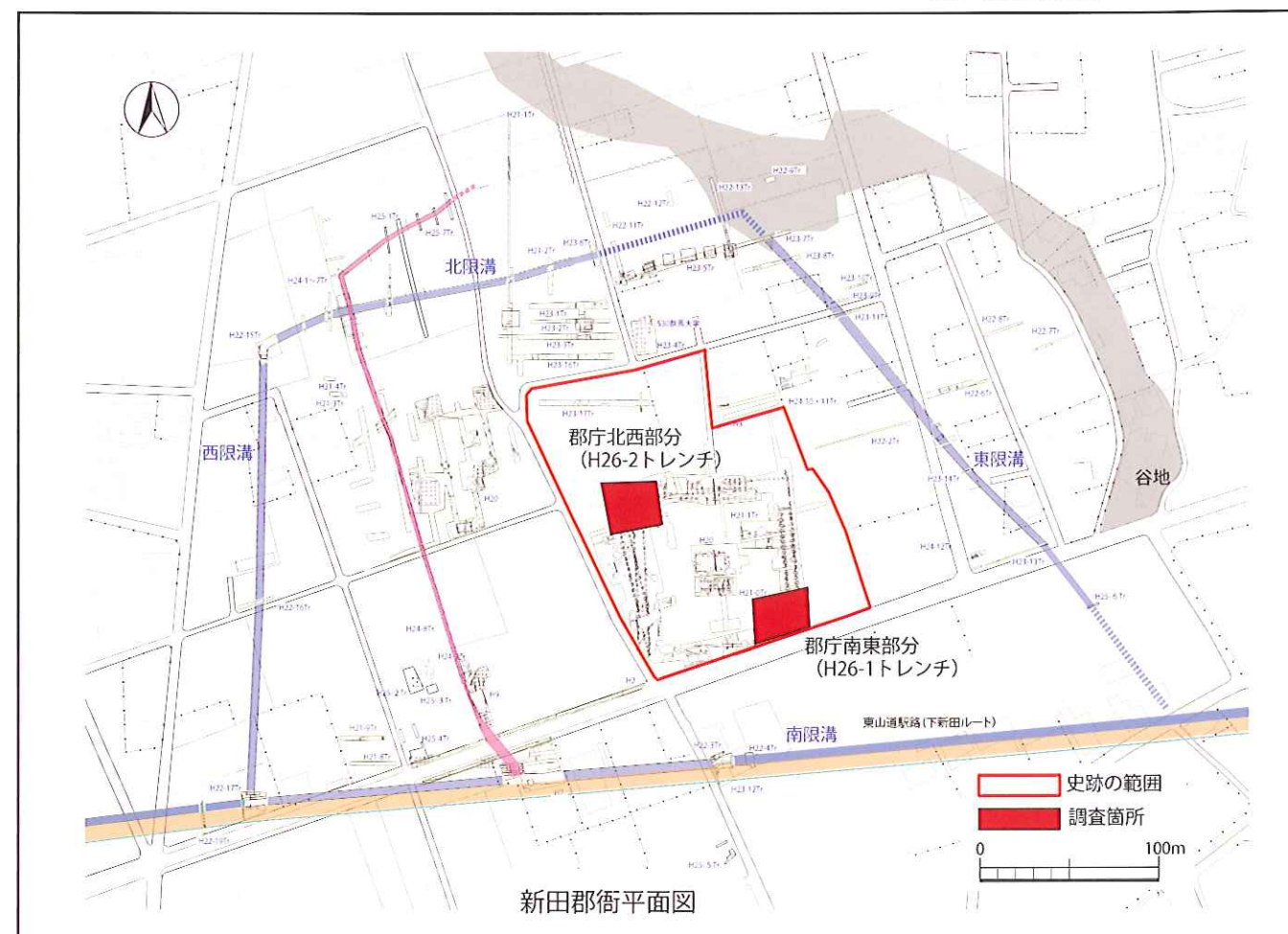
北と西の長屋建物跡を L 字形に結ぶ掘立柱塀が見つかりました。この結果、1・2 期における郡庁の北西部分は、塀が巡っていたことが明らかとなりました。また、新たに礎石建ちの正倉跡が確認されました。

### ○郡庁南東部分

東の長屋建物跡から南へ延びる掘立柱塀（塀の跡）が見つかりました。1・2 期における郡庁の東辺は、塀が巡っていたことが明らかとなりました。また、溝状遺構や、新たな掘立柱建物跡が確認されました。



新田郡衙の位置



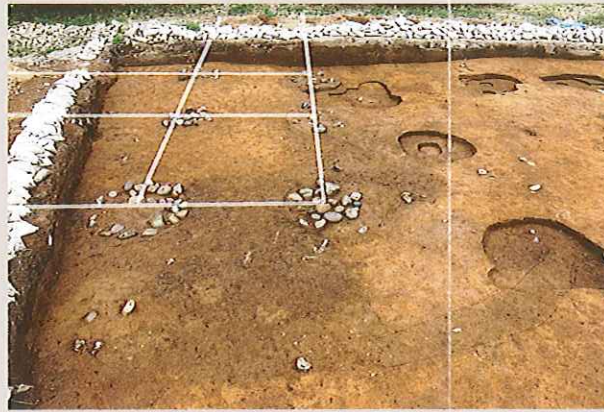
新田郡衙平面図



# 郡庁北西部分



堀立柱塀（塀の跡）：西から撮影。柱穴群が1・2期の北・西長屋建物跡間をL字形に結んでいる。柱間は北辺で2.5～3.2m、西辺で2.1～2.7m。柱穴の形状から、1回建て替えられていたことがわかっている。これは、北・西長屋建物跡の建て替えと一致している。

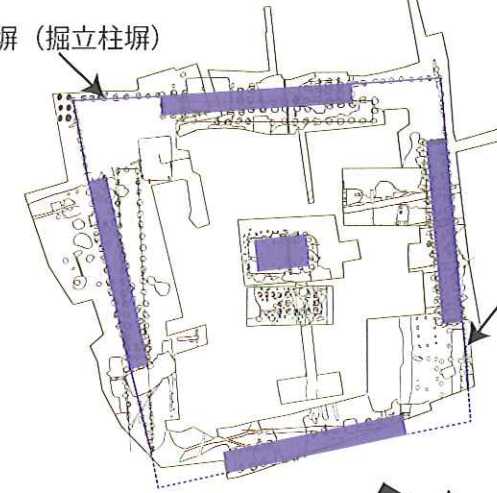


正倉跡：南から撮影。総柱建物跡の南東隅にあたる礎石の根石が残されていた。柱間は東西約2.4m、南北2.7mと推定される。周辺に炭化米が散らばっていた。5期に造られた正倉であると推定される。

# 新田郡庁の移りかわり（案）

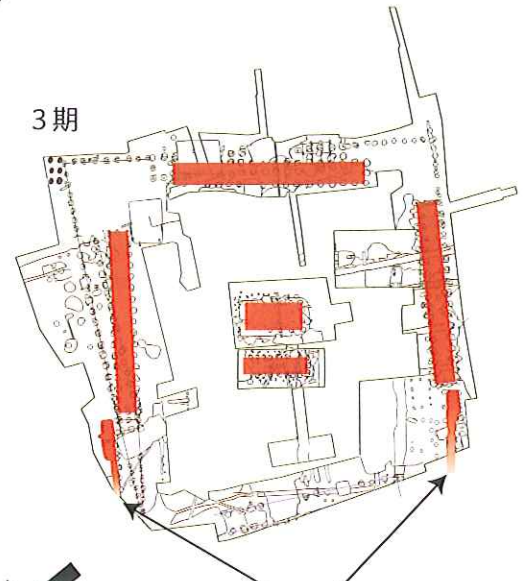
1・2期（7世紀後半から8世紀前半）

堀（堀立柱塀）



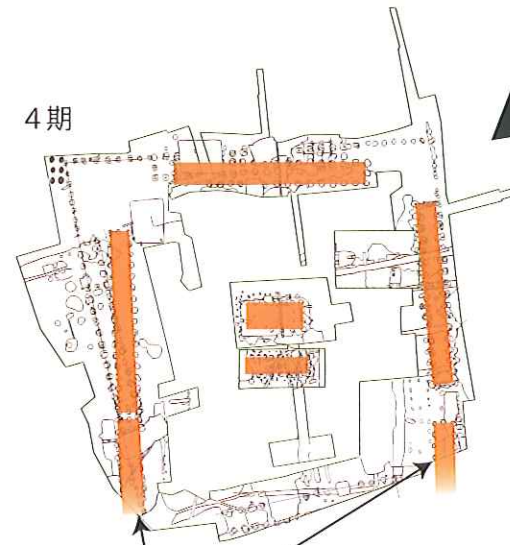
堀（堀立柱塀）

3期



溝状遺構

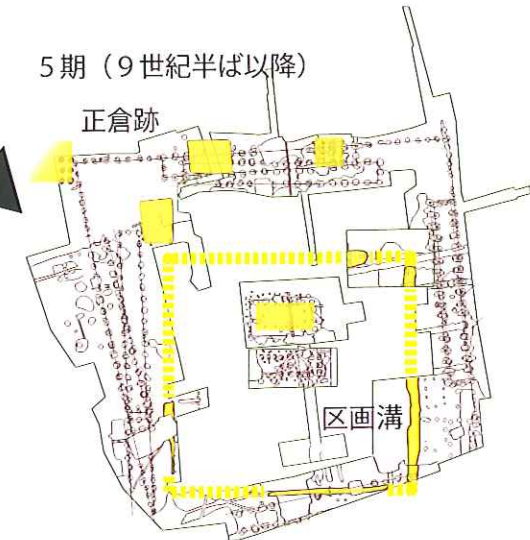
4期



堀立柱建物跡

5期（9世紀半ば以降）

正倉跡



区画溝

0 50m

# 郡庁南東部分



堀（堀立柱塀）：北から撮影。1・2期における東長屋建物跡の南の延長上に柱穴群が並んでいる。柱間は2.0～2.3mである。1回建て替えが行われており、1・2期の東長屋建物跡の建て替えと一致している。



溝状遺構と堀立柱建物跡：南から撮影。溝状遺構は、堀立柱塀（塀の跡）を壊して造られている。この遺構の性格は明らかでないが、郡庁の内と外を区画することに関連しているものではないかと思われる。3期の郡庁南西部分にも似たような遺構がみられ、対称的に造られたと考えられる。一方、新たに見つかった堀立柱建物跡は、溝状遺構を壊して建てられていて、梁行2間、桁行3間以上の側柱建物であると考えられる。4期の西長屋建物跡の南にも似たような構造の建物跡があり、対称的に造られたと考えられる。

0 50m

遺構の解釈については、平成26年11月15日現在のものであり、今後、調査や検討によって変更する可能性があります。